

北海道畜産の持続的発展への研究戦略

—より安全・安心な畜産物の安定供給を目指して—

日 時：2003年12月12日（金）13:00～17:00

場 所：北海道大学学術交流会館大講堂

実行委員長：岡本全弘（酪農学園大学）、コーディネーター：近藤誠司（北海道大学）

講演

- | | | |
|-----------------------|-------------|------|
| 1. 北海道の飼料基盤と畜産物生産の可能性 | 北海道大学 | 中辻浩喜 |
| 2. 物質循環からみた北海道畜産 | 北海道立根釧農業試験場 | 三枝俊哉 |
| 3. 畜産物の安全性確保 | 帯広畜産大学 | 石黒直隆 |
| 4. 食品トレーサビリティと信頼回復の課題 | 酪農学園大学 | 細川允史 |
| 畜産物の安全性に係わる研究の現状と方向性 | | |
| (1) 国の施策と研究動向 | 北海道農業研究センター | 竹下 潔 |
| (2) 北海道の施策と道内の研究動向 | 北海道立畜産試験場 | 川崎 勉 |

総合討論

シンポジウム「北海道畜産の持続的発展への研究戦略」に期待する

北海道の農業および畜産業は、わが国の食糧基地としての役割を担い、順調に発展してきたように思われる。これは、直接・間接に産業に従事されてきた先人の努力の賜物である。ところが、農家戸数の減少、飼料自給率の低下、畜産環境問題の発生、口蹄疫やBSEの侵入、畜産食品の表示偽装事件など、潜在的に抱えてきた多くの問題が表面化し、長年培ってきた消費者の信頼をも失いかねない事態にある。

問題は社会的問題や倫理的問題を含み、多面的で複雑であるが、こうした事態の克服なしに持続的な発展は望めない。行政や生産者団体などはさまざまな対応措置をとりつつあるが、緊急に対症療法的な措置に頼らざるを得ないようである。北海道の畜産に関わる研究者は、即効性はなくとも、より根本的な解決策と明るい未来を模索・提案すべきである。北海道畜産学会、北海道草地研究会、北海道家畜管理研究会の会員は、これらの問題に真摯に取り組み、北海道畜産の持続的な発展が展望できる生産システムの研究や技術開発を介して、政策の提言や社会への情報提供を積極的に行う意

志を共有する。

北海道の畜産関連3学会・研究会の共催シンポジウムは2001年9月に第1回が開催されたが、上述のように問題は山積されてしまった感がある。そこで再び、北海道畜産の持続的な発展を模索するため、畜産物の生産、加工、流通、消費の全過程の問題点を把握し、研究や技術開発の方向性を論議する「場」を設けることとした。本シンポジウムは、その性質上、直截な解決策や結論を求めものではない。研究者・技術者の集団が論議を重ね、問題意識を明確化し、集団としての力量を向上させるとともに、個々の研究者にとって実り多きものであつて欲しい。本シンポジウムが会員諸氏を刺激して、北海道畜産の健全な発展のための一里塚となりうることを期待している。

2003年12月

北海道畜産学会・北海道草地研究会・北海道家畜管理研究会合同シンポジウム実行委員長

酪農学園大学 岡本全弘